すべきであり，オオクチバスの「すみわけ論」を擁護するバサーは所詮道楽に過ぎない自分たちの行為が，同胞である琵琶湖漁師に何を強い続けているのかを正しく知るべきである．もちろんオオクチバス擁護派が逃げ口実に使うように，魚類を始めとした水生動物の減少要因をオオクチバスやブルーギルに全て帰することができないことは自明のこと．琵琶湖を水の詰まったタンクとしかみなしていない人たちにも，ぜひ手にとって頂きたいお勧めの本である．

（田中哲夫　Tanaka Tetsuo：〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘6丁目　兵庫県立姫路工業大学/人と自然の博物館　e-mail: f-tanaka@nat-museum.sanda.hyogo.jp）

図書紹介・New Publications

魚類学雑誌
49(1): 61–62

□魚類学

魚の分類の図鑑：世界の魚の種類を考える． —上野輝彌・坂本一男，1999．東海大学出版会，東京．196 pp．ISBN4-486-01497-9 C1045．2800円（税別）．魚の分類の図鑑？と聞いて最初は何を今さらと思った．ところが，それは魚類の多様性を理解していない無知のなせるわざであることが後にわかった．実は，魚類全体の多様性を理解するのは容易なことではない．まさかあの分厚い図鑑を持ち歩くわけにもいかないし，普通の図鑑はある特定の地域の魚を扱っているにすぎない．魚類学の教科書もあるけれど，あれは読み物として面白いものではないし，線画から得られるイマジネーションには限界がある．本書は魚類全体の多様性を体系的に理解するためにつくられた本である．比較的新しい分類体系に沿って魚類が高次分類群ごとにまとめられ，豊富な写真とわかりやすい解説がついている．何より特筆すべきは本書が非常にコンパクトなことである．つねに持ち歩いても邪魔にならない．欠点があるとすれば，それは本書が小さいために紛失しやすいことであろうか．現に私の手元から何回も消え去っている．著者の一人である上野輝彌氏は，日本（あるいは世界？）でもおそらく魚類全体の多様性を端から端まで手にとるように理解している唯一の人である．そしてもう一方の著者である坂本一男氏の魚に対する造詣の深さには常に驚かされる．この二人が書いた本の質が悪かろうはずがない．魚類学者が「私の魚」に埋没しないためにも，本書を常に手元におき自己研鑽されることをお勧めする．（宮　正樹）

□魚類行動生態学

魚類の社会行動1． —桑村哲生・狩野賢司（編），2001．海游舎，東京．209 pp．ISBN4-905930-77-4．2600円（税別）．既刊の「魚類の繁殖戦略1，2」の姉妹編として企画された3巻からなるシリーズ本で，本書はその第1巻である．今回の「魚類の社会行動」シリーズでは，魚類の社会行動・社会関係に見られる興味深いトピックスをとりあげ，進化生物学・社会生態学の視点からそれぞれの現象の意義やメカニズムを掘り下げ，詳しく解説することを謳っている．そうした狙いが第1巻で功を奏しているのかどうか気になるところである．本書（第1巻）は，野外調査のデータを基に，「雌雄の協力と対立」をキーワードとする5つのトピックス（5章）で構成されている．第1章，カリブ海にすむブルーヘッド（ベラ科の1種）雄が産卵相手の雌のサイズに対応して放出精子量を調節する現象とその調査方法に関する論述から，第5章での口内保育魚オオスジイシモチにおいて時々起こる保育雄による保護卵の捕食が基本的には保護雄の生存と繁殖のトレードオフによって成り立っている話題まで，一気に読ませる．若手行動生態学徒のフィールドワークを通した真摯な謎解きへの努力と，それをエンカレッジする編者の温かい姿勢が伝わってくる好書であり，続巻の刊行も待たれるところである．（後藤　晃）

□生態学

Competition. 2nd edition. (Population and Community Biology Series, Volume 26)—P. A. Keddy. 2001. Kluwer Academic Publishers, Dordrecht. 552 pp. ISBN 0-7923-6064-8. 1989年に出版されたものの全面改訂版である．ページ数も202から倍以上に増え，生態学の主要原理である競争についての詳細な教科書となっている．大変有用な本である．著者はこの第2版において，資源の動態と競争との関係や競争における優劣問題，環境勾配に応じた競争の違い等について重点をおき，新しいモデルの紹介や進化と競争との関係についても多くの紙面を割り当てている．私が学生の頃にはガウゼの競争排除則やロトカーボルテラのモデルなど単純なものしか紹介されていなかったが，今や競争は対象生物，環境，生態系によって多様な問題点を生み出している．初版本に比べて多くの内容を含んでいるが，それだけ複雑にもなっている．私は個人的には競争は2つの側面でますますおもしろくなっていると思う．1点は，個体差をもつ集団と集団をどのように解析するのかということ，もう1点は，群集構造の中で競争がもつ意味をどうとらえるのかということである．本書を読むかぎりでは，これらの点についてはまだ十分に進展していないようであるが，それだけ新しい研究の展開が期待できると考えられる．

（片野　修）

□その他

魚介類に寄生する生物． —長澤和也，2001．成山堂書店（ペルソーブックス009），東京．186 pp．ISBN 4-425-85081-5.

1600円（税別）．寄生生物の分類や生態についてわかりやすく説明した一般向けの解説書である．魚類との関係も生活史や養殖に関連してくわしく記述されている．著者は無脊椎動物から水生哺乳類までを含めた幅広い宿主を対象とする水族寄生虫学を提唱する．寄生生物はふつう宿主に強い病害を与えずに静かに暮らす生き物であり，宿主への接近・侵入方法・栄養の取り方・他の宿主への移り方など，寄生生物への興味は尽きないという．宿主の生活史に合わせて中間宿主のヨコエビと終宿主のイワナを巧妙に利用するカジカ鉤頭虫の話や，外来魚とともに外来寄生虫が日本に侵入している話は大変興味深かった．アニサキスやサナダムシなどは人間にも害を及ぼすので，その生活史や防ぎ方については多くの読者が関心をもつだろう．私は20年ほど前にカワムツの個体識別と成長追跡を行っていた頃，その体表面に寄生するチョウモドキの数や大きさを記録したことがあった．ひょっとして寄生虫の数とカワムツの成長や繁殖（産卵回数）との関係を調べればおもしろいのではないかと漠然と感じていたのだが，やがてその意義がよくわからずにサンプルもノートも捨ててしまった．本書で川の上流と下流での寄生生物の種組成や生態の違いもわかっていないと知って，今さらながらもったいないと感じている．流行物ではないかもしれないが，この分野への取り組みを若い研究者に薦めたい．

（片野　修）

会員通信・News & Comments

魚類学雑誌
49(1): 62–63

会員通信，書評，図書紹介について

会員通信や書評などの記事については，特にこれまでは取り決めがありませんでした．論文に準じる様式の記事については校閲者に掲載の可否について意見を聴くことはありましたが，基本的には会員のみなさんの自由な投稿に任せてきました．しかし，実際には会員のみなさんからの投稿は少なく，編集委員が図書紹介を書いたり記事を依頼しているのが現状です．したがって，魚類学に関する多様な情報を交換する場を提供するという点では，会員通信は必ずしも十分ではありませんでした．

編集委員会では，会員通信や書評を充実させることが学会の活性化や会員相互の交流を促進するうえできわめて重要であると考えています．そのためには，会員のみなさんの積極的な投稿を促し，これまで以上に多様な話題を提供していただきたいと思います．そこで，会員通信や書評の内容として考えられるものを編集委員会で検討した結果を下に提案します．これらのことは，従来の魚類学雑誌にもあったことですが，フレームを明示することでより多くの記事が投稿されればと思います．みなさんからのご投稿をお待ちしています．なお，連絡先，投稿先は文末を見てください．

1　図書紹介と書評　図書紹介はこれまでも多くなされてきましたが，ほとんどが編集委員の目に入ったものだけでした．紹介したい図書がありましたら，お教え下さい．また，書評についてはこれまで必ずしも多くありませんでした．図書の長所や短所を紹介し，さらに評者自身の見解や批評を述べる場として，書評を充実させていきたいと考えています．会員のみなさんや周りの人が図書を出版された場合には，主任編集委員までお送りください．責任をもって書評もしくは図書紹介を掲載いたします．

2　研究室・研究所・博物館の紹介　研究室紹介については以前も行っていましたが，一部にすぎませんでした．また，数年前に一度紹介した場合でも，その体制や研究テーマが変わっている場合もあるでしょう．そこで，現在取り組んでいる研究や共同研究の可能性，あるいは研究室が抱えている問題点などについて紹介するコーナーを設けたいと思います．自分の所属するところをアピールしたいという投稿を歓迎します．

3　研究会紹介　各地の自然誌研究会や魚類研究会は，教員や魚類愛好者，水産試験場に所属する方々などが多く参加し，盛況であるときいています．これらの研究会の活動報告や発表会の状況，発表テーマなどについて紹介して頂く企画です．ホームページの有無や次回発表会の開催場所・日時などについてお知らせいただくと，参加されたい方には便利だと思われます．また，研究会が行う調査・研究の成果についての報告も歓迎します．

4　インタビュー記事　日本の魚類学の歴史について，先達に話してもらう企画です．過去の研究の過程やエピソード，あるいは現在の魚類学会への提言などをインタビュー形式で記録します．お話をききたい先達の方については，主任編集委員までお知らせください．

5　新知見報告　魚類の分布，形態，行動，生態などについての新知見がえられたが，論文にするほどまとまっていない場合や，希少魚の保護についての情報を会員通信として掲載できます．従来から行われていた形式です．新分布報告については標本による裏付けを必要とします．掲載の可否は編集委員会が行うものとし，必要な